

『先生のための発達障害』



文部科学省委託事業

平成28年度 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する
早期・継続支援事業
(発達障害早期支援研究事業)



国立大学法人
愛知教育大学

はじめに

本DVD『先生のための発達障害』は、文部科学省から愛知教育大学が受託しましたH28年度早期支援研究事業の一環として制作されたものです。現場教員の方々を対象に、少しなりとも発達特性を持つ子どもたちへの理解や関わりを支援したいと願い、インクルーシブシアターと共に制作を行いました。本DVDは、発達障害の中でも自閉スペクトラム症（広汎性発達障害）の子どもたちに焦点を絞り、その教育的関わり方の指針を示しています。

今日インクルーシブな教育的理念や実践が声高に叫ばれる時代になり、本プロジェクトもその理念を受け継ぐものです。ただし、私自身は真にインクルーシブな文化というのは、単に人と人が仲良く過ごすことなく、そこには人と人が正面から向き合うこと、すなわち、対立や意見の相違も関係性の中に含まれてこそ、手ごたえのある共存も可能となろうと考えています。したがって、教育現場においては、児童生徒間の競争や争い、さらには教師との意見の相違も、一概に避けられるべきものではないと考えています。なぜなら、そうしたぶつかり合いを通してこそ、初めて実現可能な人間的成長もあると思うからです。

ですが、発達特性を持つ子どもたちは、定型発達の児童とは脳の働きや感覚が違い、小さい頃から失敗体験を繰り返しています。成功体験の乏しい彼らのこころは傷つきがちで脆弱です。したがって、本DVDでは、まずは彼らの世界に大人である教師がどのように手を差し伸べ、理解し、関わっていくかを中心に示してあります。ですが、発達特性を持つ子どもたちが、傷つきに耐えられるだけの成長を遂げ、社会に参入してきた時には、大いにぶつかりあうことも結構でしょう。本DVDは、その前に、まずは彼らの傷つきがちなこころを育てる支援の仕方を示そうとしました。

本DVDが教師の皆さんの日頃の教育実践の参考になれば、この上ありません。

愛知教育大学教育臨床総合センター
センター長 祖父江 典人

『先生のための発達障害』



文部科学省委託事業

平成28年度 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する
早期・継続支援事業
(発達障害早期支援研究事業)



国立大学法人
愛知教育大学

目次

発達障害とは	1
自閉スペクトラム症	2
ローナ・ウイングによる分類	
「積極奇異型」「受身型」「孤立型」	4
ドラマ① 積極奇異型 ～小学校4年生男子～	
問題編	6
解説	7
解決編	7
ドラマ② 積極奇異型 ～小学校4年生男子～	
問題編	10
解説	11
解決編	12
まとめ	14
ドラマ③ 受身型 ～小学校3年生男子～	
問題編	15
解説	16
解決編	17
まとめ	20
ドラマ④ 孤立型 ～小学校4年生女子～	
問題編	21
解説	23
解決編	23
まとめ	27
最後に	28

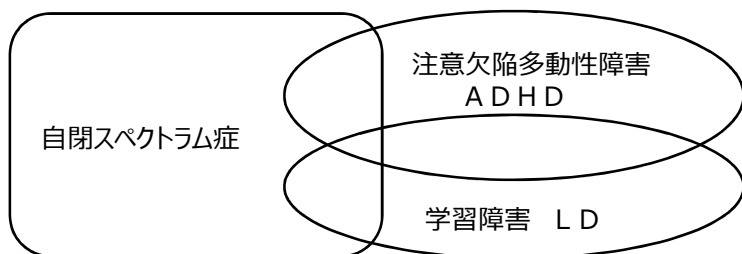
発達障害とは

発達障害の概念自体は医学領域では診断基準の変更がなされたり、教育と医学では、その考え方に細かな違いもあり、一概にまとめるのは難しい面があります。ですが、ここでは細かいことにはこだわらず、おおまかで実際的な発達障害の理解をお伝えしたいと思います。

まず、発達障害とは、脳の働き方が生まれつき定型とは違うところから来ているという考え方が、今日では優勢です。そのため定型発達の子どもたちとは違い、小さい頃から音に過敏だったり、人に関心がなかったり、強いこだわりがあったりなど、さまざまな特性が生まれます。親の育て方の問題ではないのです。ですが、同じ特性を持って生まれた子どもでも、愛情豊かに育てられる場合とネグレクトや冷たい仕打ちで育てられる場合では、育ち方やパーソナリティが大きく異なってくることは、定型発達の場合も同じですよ。いずれにしろ、親の育て方が大事なことはありません。

さて、発達障害には大まかな分類から言えば、3種類ほどあります。学習障害、ADHD(注意欠陥多動性障害)、自閉スペクトラム症(自閉症とかアスペルガーが含まれます)です。

発達障害の大分類



自閉スペクトラム症

自閉スペクトラム症を本DVDでは取り上げ解説しています。もっとも自閉スペクトラム症とADHDや学習障害は合併しやすいと言われていますので、必ずしも明確にそれぞれを線引きするのは難しい面があります。

なお、スペクトラムという名称が付けられているのは、医療領域の今日の考え方では、自閉傾向は程度の差こそあれ、定型発達との連続線上にあると考えるからです。私たちは誰しも、多かれ少なかれ、自閉傾向は持っているわけです。ですが、それがひどく困難をもたらすほどのものか、差し障りなく暮らせる程度のものか、という違いです。大きくくりすれば、私たちは誰しも発達障害なのだと言っても過言ではありません。まず、自閉スペクトラム症の共通している特徴から取り上げましょう。

「対人的コミュニケーションの困難」

さて、「対人的コミュニケーションの困難」ですが、これは、人間関係に係る困難です。すなわち、友達と気持ちや考えを共有することが難しく、関わりを避けてしまったり、逆に一方的に話し続けてしまったりします。もう少し具体的に言えば、友達が話し掛けてきても、自分の興味のある図鑑に夢中になり、まったく反応しなかったり、逆に友達がそろそろ話を切り上げようとしていても、全く気が付かずにエンドレスで同じことを話し続け、友達をうんざりさせてしまったりすることなどがあります。

また、比喩やあいまいな表現が苦手で、文字通りに解釈してしまったりします。お母さんが「今日の夕飯は鍋だよ」と言ったことに対して、「鍋は食べられない」と答えたりします。喩えが通じなくて、文字通りに受け取ってしまうわけですね。

「著しいこだわり」

次に「著しいこだわり」ですが、これもさまざまあります。たとえば、興味へのこだわりとしては、通常のおもちゃや絵本には興味を示さないのに、魚の図鑑だけには夢中になる。電車の時刻表は教えてもいないのにすべて覚えているなど、興味に極端な偏りがあるのです。日常生活の中でのこだわりで言えば、毎日同じ服を着たがる。

道順がいつもと違うと怒る。学校の時間割が急に変更になると混乱する。机の上の鉛筆やノートの位置は、いつも同じとこでないと怒る、などです。ですから、決まったルールが変わることや日常生活の変化に対する柔軟性が乏しいので、臨機応変な対応はもっとも苦手とするところです。このような日常生活におけるこだわりを強迫的傾向、ひどくなれば強迫症状と言うこともあります。

「異なる感覚」

さて、他の特性としては、感覚に関するものが多いです。きらきら光るものをいつまでも見たがる。たとえば、水たまりに光が反射したりするに魅入られます。他には、たとえば大きなおもちゃ屋さんなどに行くと、おもちゃの風車が回るのをいつまでも見ていたりします。

ただし、感覚に類することでは、感覚過敏など苦痛を伴うことの方が多いでしょう。たとえばマイク音やチャイム音が苦痛で耳をふさいでしまう。光がまぶしくて耐えられない。皮膚の感覚が過敏なので肌触りが不快で特定の服を嫌がる、などです。

ローナ・ウィングによる分類 「積極奇異型」「受身型」「孤立型」

このように自閉スペクトラム症には、共通の特性がありますが、どの特性が顕在化するかは人によって違います。イギリスの自閉症臨床の大家であるローナ・ウィングはそれを3タイプに分け、さらにわかりやすくしました。すなわち、彼女は自閉スペクトラム症を「積極奇異型」「受身型」「孤立型」に分類しています。この分類に従って、このDVDも劇仕立てで解説していますので、ここでそれぞれを簡単に説明しておきましょう。

積極奇異型

まず「積極奇異型」ですが、名前がちょっと仰々しい感じがしますね。このタイプは、積極的に人と関わろうとするのですが、相手の都合を考えずに一方的な関わり方になりがちです。友達にも積極的に話しかけたりしますが、話の内容が自分のことばかりになったり、同じ繰り返しになったり、途切れなく話すので、友達が話に入れなかったりします。ですから、友達の方は疲れてしまったり、うんざりしてしまったり、また同じ話かと思ったりして、関わるのを避けてしまうわけですね。彼らは、友達がどう感じたり思ったりするかを想像できないところがあります。

ですが、このタイプの児童生徒のよい点としては、関わりを避けて孤立してしまうことは少ないので、周囲が彼らの一方的な関わり方をうまく理解し、彼らにアドバイスしながらも、彼らに合った付き合い方をすると、友達関係を持ちやすくなります。

受身型

次に、「受身型」ですが、人との関わり方がまさに受身的で、自分から積極的に関わろうとはしません。ですが、人との関わりを拒否しているわけではないのです。彼らは、従順で、人に付いていくタイプです。ですから、彼らから友達とトラブルを起こすことは滅多にありません。でも従順な分、嫌と言えなくて、友達から用事を押し付けられたり、ひどい場合には利用されたりいじめの対象になったりします。

このタイプの児童生徒のよい点としては、彼ら自身が自己主張することは苦手ですが、クラスの中でも彼らに見合った役割を担当すれば、コツコツと仕事をし、それが彼らのアイデンティティにもなったりします。たとえば、動物や植物が好きなら、そのお世話係になれば、持ち場を得たように楽しんで係を務められます。

孤立型

最後に「孤立型」ですが、このタイプがいちばん自閉圏らしい特徴を備えています。つまり、人に対する関心が一番乏しいのです。したがって、友達が話し掛けても反応に乏しく、視線も合いにくかったりします。自分の好きな図鑑やゲームに没頭し、周囲のことが目に入らず、一人の世界に入り込んでいたりします。このような特性は「自閉のカプセル」とも言われ、周囲の刺激を遮断することにより、自分のことを守っているのです。

ですから、人との関わりに潜在的には強い脅威を感じていますので、正面から大きな声で関わるのは避け、斜め横から静かに声を掛けたり、言葉も短めに伝えたりした方がよいでしょう。そういう関わり方によって、安心感が得られれば、彼らなりの親しみを持って接してくれることでしょう。

ドラマ① 積極奇異型 ～小学校4年生男子～

問題編

【マユさん】

帰りの会をはじめます。
今日の良いことをした人を発表します。

私が気分悪い時に、
アズサちゃんが保健室についてきてくれました。
何か質問はありますか？

じゃあノリくん



【ノリくん】

どういう風に気分が悪かったんですか？
僕があ、前にい、気分が悪かった時はあ、すごくお腹が痛くなってえ、
それからタカシくんが保健室と一緒にいてきてくれてえ、
それで僕はすごくうれしい気持ちになってえ

【マサルくん 声のみ】

それはノリの話じゃん！また始まったよ、誰か止めてよ！

【ノリくん】

あと！前にタカシくんが気分悪そうにしているときにい、
僕があ、タカシくんを一、保健室に連れて行ったこともあってさ
すごく心配だったんだけど、タカシくんの体調がよかったみたいでよかった
です。

【タツヤくん】

ノリの話をする時間じゃないでしょ！

【マユさん】

そろそろ時間だから、ノリくんの質問はここまでにします。

解説

ノリ君は積極奇異型に分類することができます。
積極奇異型のノリ君は、友達と関わりたい気持ちは強いのですが、関わり方が一方的になりがちです。

そのために、友達がどう感じるかという他者の立場に立つことが難しく、会話のキャッチボールが苦手です。

ここでも友達のことではなく、自分の話ばかりしてしまい、しかも夢中になってだんだん早口になっています。

それに友達がうんざりしてしまっています。
このようなことは、このタイプの特性を持つ子どもたちにはよく見られる行動です。

解決編

積極奇異型のノリ君は、友だちと関わりたい気持ちが強く、関わり方が一方的になりがちです。

それでは具体的に
どのように対応していけばいいのか確認していきましょう。

【先生】

さっきノリくんが発表してくれた時に、
クラスみんながノリくん注意到いたけど、
何で注意していたかわかるかな？

【ノリくん】

うーん、長かったからかなあ、
でも、タカシくんが…

【先生】

ノリくん、ノリくん、先生の話も
聞いてくれる？



ノリ君が一方的に話し始めようとした時、先生は注意
が先生のほうに向くようにやさしく呼びかけます。

ノリ君の注意が先生に向いたことを確認してから、
今日の件について問いかけます。

【先生】

日直のマユさんは、
どんなことをノリくんにとってほしかったのかなあ？

【ノリくん】

マユちゃんが、アズサちゃんにどんなふうに
優しくしてくれたかを聞いてほしかった？

【先生】

そうだよな。でも、さっきはノリくんが当てられて、質問はしていたけど。そのあと、何を話してた？

【ノリくん】

うーん、自分の話をしちゃった。

【先生】

そうだったね。

でも、よく気づけたよ。

明日からは、ノリくんが質問をした後、日直さんの答えをちゃんと聞いてあげるといいよね。



【ノリくん】

うん。わかりました

先生は、ノリ君とふたりで静かに話せる状況を作り、ノリ君に友達の気持ちや周りの状況を把握できるように理解を促しています。

そのために、ノリ君に質問してノリ君の考えから聞こうとしています。積極奇異型のタイプの子どもに対しては、傾聴しているばかりでは話の一方通行を助長させかねません。双方向のコミュニケーションを図るために、上手に話の途中で言葉を差し挟むことも必要となります。

子どもの注意がこちらに向いたことを確認してから、次の質問などを投げかけるとよいでしょう。最初から先生がアドバイスするのではなくて、ノリ君の考えを聞きながら理解の促進を図る方が、自ら考える力を付け、ノリ君の自尊心も尊重できるよい関わり方です。

ドラマ② 積極奇異型 ～小学校4年生男子～

問題編

【タカシくん】

もうちょっと小さい声で話せよ！

【先生】

どうしたの？

【タカシくん】

ノリがみんなに聞かれたくない
ことを大きな声で言ったんだ！

【ノリくん】

そんな大きい声で言ってないよ！

【タカシくん】

いつも大きい声だし、話す時に顔が近くて
うっとうしいと思ってたんだよ！

【ノリくん】

休み時間にタカシくんと話そうって思っただけだよ！

【先生】

一体なにがあったの？



【タカシくん】

言ってほしくないことをノリが大きな声で話したんだ

【先生】

言ってほしくないことって？

【タカシくん】

……好きな子の話なんですけど

【先生】

そうなんだ。それは大きな声で言ってほしくなかったよね



【タカシくん】

うん。それに、ノリはいつも話す時に顔を近づけてくるし
声もでかいから、みんな嫌がってるし

【先生】

そうなの。どれくらい近い距離で話すの？

【タカシくん】

これくらい

【先生】

ちょっと近いよね。みんなもそのことを気にしてるんだね？

解説

積極奇異型のノリ君は、自分の声の大きさや
友達との距離が近いことに気付くことが苦手です。

他者の立場に立って感じたり考えたりすることが難しい面があるために、こうしたトラブルを招くことがあります。

解決編

【先生】

ノくん、ちょっと座って話そうか。何があったの？

【ノくん】

ぼくが話したら、タカシくんが急に怒ってきて…

【先生】

そうか、ノくんはタカシくんが急に怒ってきたことが嫌だったんだ。

でもね、タカシくんはちょっと違っていて、
ノくんの話し声が大きかったのが嫌だったみたいだよ

【ノくん】

うーん、そうか。でも、どうしたらいいかわからないんだ

【先生】

タカシくんは周りの子に聞いてほしくない話をしていたんだよね。
周りに聞かれない話をするときは、どんな声で話したらいいと思う？

【ノくん】

小さい声？

【先生】

そう、小さい声だけど、
ノ君、小さい声で話してごらん

【ノくん】

あのね、先生



【先生】

ごめんね、
先生もびっくりしちゃった。

今のノリくんの声、
それは“5”くらいだったよ、

周りに聞かれたくない話を
するときは、
“1”の大きさと話した方が
いいんじゃないかな？



【ノリくん】

“1”かあ、このくらいかなあ、『あのね、先生』

【先生】

そうそう、上手にできたよ。身体にも力が入っていないし、
顔も離れているから、先生も聞きやすいよ。

ノリ君のような発達特性を持つ子には、皆と一緒に話すよりも、静かな場所で一対一でゆっくりと話の方が効果的です。

というのは、耳からの情報の取入れが苦手な彼らは、大勢で話すといっぺんにいろんな話が耳に入ってきて、混乱してしまうからです。

先生は、1や5などの数字を使い、声の大きさについて具体的な数字を示して話そうとしています。

発達特性を持つノリ君には、小さい、大きいという抽象的な言葉では、理解が難しいからです。

まとめ

積極奇異型のノリ君は、自分の声の大きさや友達との距離が近いことに気付くことが苦手で、自分の話に夢中になりコミュニケーションが一方的になりがちです。

皆と一緒に話すよりも、静かな場所で一対一でゆっくりと話し、理解の難しい小さい大きいなどの抽象的なことばではなく、1や5といった数字を使うなど具体的に伝えたほうがよいでしょう。

例えば机の上の筆箱を示す時、「前から何番目の机の上の筆箱」など具体的に伝えた方がよいでしょう。

アドバイスでは、「身体にも力が入っていない」「顔も離れている」など、よかった面を具体的にフィードバックして伝え返すことで自信をつけさせることも必要です。

ちょっと一息

南カリフォルニア大学のエアーズらにより感覚統合理論が提唱されて以降、ADHDや学習障害、自閉スペクトラム症など発達障害のある児童に感覚統合障害（SPD）が存在するケースが数多く報告されています。

感覚統合障害（SPD）は、「周囲の環境からの感覚情報をうまく処理することができない」ために行動やコミュニケーションなどに様々な困難をきたします。

行動障害やコミュニケーション障害は、感覚が過敏であったり、鈍麻であったりすることが原因であることがあります。

ドラマ③ 受身型 ～小学校3年生男子～

問題編

【先生】

はい、では国語の授業始めます。
教科書 3 2 ページを開いてください。

【カズヤくん】

先生！教科書忘れましたー！

【先生】

カズヤくん！
昨日も忘れていなかった？

忘れ物が最近多すぎます！
気を付けなさい！
今回は隣の人に見せてもらいなさい。

【カズヤくん】

はい、ごめんなさい……。

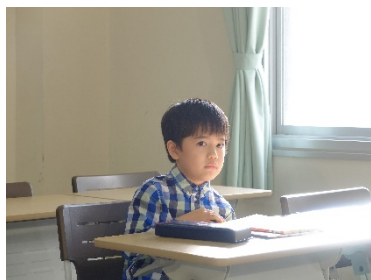
（時間経過）

【先生】

次の時間は音楽です。
教室移動をするので
遅れないように。

【児童たち】

起立、礼。



【先生】

それでは授業を始めます。
あれヒロシくんは？

【児童たち】

しらなーい

【先生 声のみ】

ヒロシくん！教室で何をしているの！？
早く音楽室に来なさい！！



解説

ヒロシ君は受身型に分類することができます。
受身型のヒロシ君は、クラスメイトであるカズヤ君が先生に叱られた時、あたかも自分が叱られているかのように感じてしまいました。

ヒロシ君は友達が叱られているのを聞いたために、自分も失敗してはいけないと緊張を高め、強い不安から萎縮し固まってしまったのです。

こうした受身型の発達特性を持つ子には、不安が高まるとよく見られる行動です。さらにその後、ヒロシ君は先生から直接叱られてしまったので、涙を浮かべてしまいました。

解決編

受身型のヒロシ君は、先生の指示を聞いて
テキパキと行動するのが苦手です。

それでは具体的に
どのように対応していけばいいのか確認していきましょう。

萎縮してしまった時は、まず、深呼吸をさせてリラックスさせましょう。

【先生】

ヒロシくん、まずは3回深呼吸をしよう。

深呼吸は高まった緊張を
ほぐすのに有効です。

他にも身体の力を抜く
練習や、柔らかいボールを
握ったりする方法などが
あります。



リラックスさせた上で、
ヒロシ君に考えや気持ちを尋ねていきます。

【先生】

ヒロシくんの名前が書かれた教科書を机の上に置けたね。
でも、他になにか心配なことはないかな？

【ヒロシくん】

忘れ物をしたら先生に
怒られちゃう…

【先生】

そうか、先生の声にびっくり
しちゃうんだったね。

じゃあ、この後先生は
小さな声で
準備する物を
指で教えるね。



耳からの情報の取入れが苦手な
発達特性を持つ子どもには、
目からの情報で一つ一つ確認していきましょう。

発達特性を持つ子どもは、
先の見通しを付けることが苦手だったり、
新しい場面が苦手だったりします。

そのため事前にチェックリストのようなものを作り、
あらかじめ準備するものをわかりやすくしたり、
予定表を見せて、先生と一緒にその日のスケジュールを
順を追って確かめたりしておくことで
不安を軽減することができます。

あらかじめ先生は授業毎のチェックリストを
作っておくとよいでしょう。

チェックリストを用いて、授業の前など事前に
予定を伝えておくことも有効です。

() の授業の持ち物チェックシート

年 組 名前

☆用意できたものから、ロに ^{チェック} V をいれよう！

☐教科書 ☐ノート ☐筆箱 ☐したじき

☐リコーダー ☐ピアノ ☐体操服 ☐なわとび

☐赤白ぼうし ☐コンパス ☐三角定規・定規

☐ ☐ ☐ ☐

【 時 分】に間に合うように教室を移動しましょう！

【先生】

次の時間は音楽だね。

10時45分に間に合うように先生と一緒に持ち物をチェックしよう。

【ヒロシくん】

はい

【先生】

最後に10時50分に

間に合うように

一人で音楽室に移動しよう。

【ヒロシくん】

はい



まとめ

受身型のヒロシ君は指示を聞いててきぱきと行動するのが苦手です。

先生は授業毎に使えるチェックリストを作成し、あらかじめ準備するものを視覚的にわかりやすくしておきましょう。

緊張して萎縮してしまった時は、まず深呼吸でリラックスさせます。

そのうえで考えや気持ちを尋ね、チェックリストの提案をしましょう。

耳ではなく、目からの情報でひとつひとつ確認することができ
る状況を作ることが大切です。

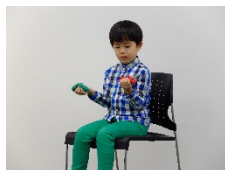
ちょっと一息

子ども達をリラックスさせる方法として、
「感覚支援用品」を活用することもできます。

触覚からの刺激、

感覚に合った
適度な重み、

ぎゅっと体を
包み込む抱擁感
により「安心感」
が得られます。



ドラマ④ 孤立型 ～小学校4年生女子～

問題編

【先生】

はいみんな、席について。

【児童たち】

はい。

【先生】

今から来月行く社会見学の見学班決めをします。

4人～5人の班を作って、決まったグループから

誰か一人が先生に班の友だちを言いに来てください。

【アズサさん】

マイちゃん、何で図鑑見てるの？

【タツヤくん】

そうだよ、

もう休み時間終わってるよ。

【ユウコさん】

マイちゃんどこの班に入るの？

...

【アズサさん】

どうしたの？

【タツヤくん】

もう、いこう。



【先生】

この前行ってきた社会見学についてまとめた新聞を作りましょう。

まずは自分がやりたい係を決めてから、見出しや絵も工夫しながら班のみんなで協力して作りましょう。

【アズサさん】

新聞づくりの係を決めよう。

【ユウコさん】

わたし絵を描く係になりたい！

【タツヤくん】

じゃあ、ぼくはこっち担当ね。

【アズサさん】

マイちゃんどうする？

【マイさん】

…えっ、何もしない。

【ユウコさん】

マイちゃんさっきから資料ばかり見てるけど、ちゃんと参加してよ！

【タツヤくん】

そうだよ、先生が班で協力して作りましょうって言ってたじゃん！

【アズサさん】

けんかしないでちゃんとやろうよ。
マイちゃんもみんな頑張ってるから…



解説

マイさんは孤立型に分類することができます。

孤立型のマイさんは、周囲からのさまざまな刺激に混乱しやすい特性があります。

自分の好きな図鑑を見ることで、周囲の刺激から自分を守ろうとしています。

そこに一度に友達が話し掛けたので、混乱のあまり図鑑に顔を隠し、もっと強く自分を守ろうとします。

場合によっては、パニックになって泣きさけんだりしてしまうような場合も起こります。

班での活動の時、マイさんは、カラフルな資料に目を奪われて、友達の言葉が耳に入ってきません。

マイさんの場合は、カラフルな資料に没頭することにより、周囲の刺激を遮断し、身を守っているのです。

自閉的な身の守り方です。

解決編

孤立型のマイさんは、周囲の刺激をシャットアウトするために、図鑑に没頭してしまっています。

マイさんは友達から話しかけられたにもかかわらず自分の好きな図鑑に顔を隠してしまいました。



まずはマイさんに近づき、やさしい声で言葉をかけ注意を向けさせます。

【先生】

マイさん…マイさん…

【先生】

今は班決めの時間だよ。
図鑑を机の中に入れてから、
みんなのところに行こうね。
この前行ってきた社会見学に
ついてまとめた新聞を作りましょう。



マイさんがこちらに視線を向けたことを確認しながら、
今何をする時間なのかを分かりやすく伝え、
具体的に指示しました。

図鑑を机の中に入れてから、
マイさんと一緒に、一番仲の良い友だちの
アズサさんのもとへ向かいます。

【先生】

マイさんもアズサさんと一緒に班決めしようか。

【マイさん】

うん。

一度に多くの刺激を受け
混乱をしてしまう
子どもには、

「図鑑を机にしまおう」や
「アズサさんと一緒に班決めをしよう」など
具体的にひとつずつ指示を出す必要があります。



先生はマイさんが先生の方に視線を向けたことを確認して、次の指示を伝えています。

これは大切なことで、先生の指示が一方的にならないように、言葉がちゃんと通じているか確かめたうえで、関わっているのです。

さらに先生は、マイさんを一番仲のいい友達のいるグループに入れ、マイさんがグループで安心して関われるように配慮をしています。

班での話し合いの中、
マイさんはみんなの活動についていけなくなっていました。

【先生】
どうしたの？

【ユウコさん】
だってマイちゃんが…



【タツヤくん】
資料ばかり見て全然新聞づくりしないんだもん。

【先生】
ちょっとマイさんとお話をするから、他のみんなで新聞づくりの話し合いを進めてくれる？

【先生】
マイさん、今は何をする時間かなあ？

【マイさん】

新聞。

【先生】

そうだね、わかっていて安心したよ、

でも、どうしてみんなと一緒に
やらなかったの？

【マイさん】

だって、絵を描く係しかなかったけど、
うまく言えなかったから。



【先生】

そうだったんだ、よく話してくれたね。
じゃあ班のみんなにもう一度お願いしてみようか。

【先生】

みんな。

マイさん、本当は絵が描きたかったけど、
うまく言えなかったから、くやしかったんだよ。

だから、新聞に載せる
一番大きな絵を描く係を
やってもらうのはどうかな。

【タツヤくん】

なんだ、そうだったのか？

【ユウコさん】

マイちゃん一緒にやろう！



先生は、一対一で静かに話せる状況を作り、マイさんに状況の理解がどの程度なされているのか、ゆっくりと質問しながら確認していきます。

その上でマイさんが自分の考えを表現できたことを「安心したよ」と言って評価し、「班のみんなに絵を描く係になりたいことをお願いする」という具体的提案を行っています。

さらに先生は、班のみんなにマイさんの気持ちを代弁し、マイさんへの理解を促しています。

最後に先生は、新聞に載せる一番大きな絵を描く担当を割り当て、班の中でのマイさんの存在感や自尊心を高める配慮をしています。このように発達特性を持つ子どもたちは、失敗体験や叱られる体験の方が日常的に多くなってしまうので、自尊心を高めるような成功体験を設定する工夫がとても大事になります。

まとめ

孤立型のマイさんのようなタイプには、特定の強い刺激に没頭してしまったり、逆に周囲からの強い働きかけによってパニックになってしまったりする、という両方のパターンが起こり得ます。

先生は、一方的にならないように、言葉がちゃんと通じているか確かめたうえで、具体的にひとつひとつ指示を出すことが必要です。

失敗体験や叱られる体験の方が日常的に多くなってしまう傾向にあるので、クラスの中で、存在感や自尊心を高める様な成功体験を設定することがとても大事になります。

最後に

発達特性を持つ子どもたちは決して単にやる気がなかったり、わがままだったり、自分勝手なわけではありません。

行動には必ず理由があり、正しく理解することで、彼らの可能性を伸ばしてあげることも出来るはずです。

発達特性を持つ子どもたちは、確かに関わるのが難しい面があります。

ですが、そうした子どもたちの可能性に目を向け、手を差し伸べていくことが、私たち大人の責務ではないでしょうか。

子どもたちの未来の為に・・・。



『先生のための発達障害』

<出演>

ノリ 青木 琉斗 ・ ヒロシ 榎原 右京 ・ マイ 井村 愛美
タカシ(カズヤ) 宮澤 怜雅 ・ アズサ 井上 祥菜
タツヤ(マサル) 鷺見 龍之介 ・ ユウコ(マユ) 小久保 柚乃
先生(積極奇異型) 西脇 瑞紀 ・ 先生(受身型) 松本 広子
先生(孤立型) 藤木 カ

<解説> 祖父江 典人

<ナレーション> 藤井 奈緒美

<演技指導> 堀尾 宣彰 ・ 藤木 カ

<動画製作> 小澤 和哉

<企画・原案・監修>

愛知教育大学教育臨床総合センター

センター長 祖父江 典人

<拠点地域>

豊明市教育委員会

<シナリオアドバイザー>

山口大学教育学部附属教育実践総合センター

教授 木谷 秀勝

<制作>

inclusive インクルーシブシアター

藤井 奈緒美 ・ 藤井 理夫

『先生のための発達障害』

文部科学省委託事業

平成28年度 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する早期・継続支援事業
(発達障害早期支援研究事業)

平成29年3月吉日 国立大学法人 愛知教育大学